

2022 夏 新型コロナ・オミクロン株蔓延の中敢えて山へ(個人山行)

～ その3 曾遊の山々 美ヶ原&焼岳 ～

(報告) 赤澤 東洋

2019年中国で発した新型コロナウイルス、その後様々な変異株を生じ、今はオミクロン株が猛威を振るい日本は異常なほどの感染者増となって医療現場は大混乱だ。2年前なら戒厳令もみかす状況なのに何故か行動制限とはならず、それをヨシとして敢えて山へ向う。80歳となり先行き短き人生、動けるのはせいぜいあと2～3年なのだ。

▲▲▲ 曾遊の山々 美ヶ原(2034m) & 焼岳(2393m) ▲▲▲

●美ヶ原●



(王ヶ鼻頂上)



(送迎バス通う高原台地)

◎期日：8月22日(月)～23日(火)

◎メンバー：赤澤他1名(妻)

今夏は富士山、白馬岳、会津朝日岳といずれも8時間を超す強行軍で疲労困憊、特に妻と登った富士山11時間、白馬岳9時間15分はもう限界ギリギリ、かなり無理をしたようで疲労回復まで1週間以上費やしてしまった。会津朝日岳に57歳の時に登った望月達夫氏は著書「折々の山」の中で〈永く記憶から去らぬ山とはあまり簡単に登れてしまう山は物足りない。登りに少なくとも5時間以上かかる山でないと印象に残らない。藤島さんとは前にも鳥甲山等でこうした思い出を持っているが、今度の会津朝日岳もその一つであり、まさに忘れ得ぬ山となった〉と書いている。自分も実に不遜ながらつい先ごろまでは〈千石以下の山なんて山とはいえない〉等と嘯いて周囲の矚蹙をかっていたものだった。が、今回で思い知った。今後は高望みせずレベルに相応しい山を探さねばと選んだのがこの2山である。

1日目＝焼岳の移動日だけではもったいないので行き掛けの駄賃で美ヶ原に向かった。1960年高校3年生の夏休み、級友3人と登って以来だから62年目だ。当時美ヶ原から霧ヶ峰へかけては筑摩山地と称されており山行目的が「中央信州筑摩山脈縦走」といかにも仰々しいもの、山中4泊5日の山旅。8月8日上野から直江津行きの夜行で大屋まで行き、上田丸子電鉄のガタガタ電車に乗り換え20分、運賃は20円だった(この電車は9年後の昭和44(1969)年廃止されている)。

丸子からはバスで約1時間、巣栗で下車し白樺平～牛伏山と歩き山本小屋のキャンプ場で幕営。翌日は茶臼山→扉峠→三峰山を経て和田峠で幕営したが接近する台風11号の影響か夜中から暴風雨となり

テントの中まで水浸しとなり明るくなるのを待つて這う這うの体でテント撤収、峠の東餅屋に逃げ込んだ。山岳部から借りたテントは使い物にならず、蓼科高原までの縦走は断念、バスで下諏訪迄下り茅野まで電車に乗り、茅野からバスで蓼科高原の新湯へ向かいバンガローを借り2泊、蓼科山に登った。

おバカな我が青春の1ページ、語り尽さないものがあるが、それはともかく今回は松本廻り国道254線～林道美ヶ原線を行き美ヶ原自然保護センターへ出た。ここはもう標高1900mの世界、最高峰王ヶ頭まで標高差130m、実に年寄り向きであるが、高原のど真ん中を牧柵に挟まれた広幅道路が設けられハイカーと観光客が入り混じってすれ違い、高原ホテルの送迎バスが行き来、山本小屋前までマイカーが入れるのには驚いた。遊歩道は覚悟していたがここまでやるかとの思い。62年前は柵などなく一面の草っぱら、牛馬がノンビリ高山植物を食べていたもので、当時は牛よりも馬の方が多く、立ち込める霧の中水飲み場へ群れを成して走る馬達に驚かされた事を思い出す。台地の草原は緑だが高山植物の花はなく牧草ばかりのようで、復路に塩クレ場の手前から百曲り方面へ下ると遊歩道のバイパスがあり、こちらは人影まばらで花も咲いていて古い美ヶ原の雰囲気少し味わう事ができた。

《コースタイム》

美ヶ原自然保護センター9:50→10:15 王ヶ頭→10:55 美しの塔→11:30 牛伏山→13:20 王ヶ鼻
→13:55 自然保護センター

●焼岳●



(煙る焼岳北峰。焼岳北峰・南峰鞍部より)

2日目＝焼岳は2度目だ。前回は丁度30年前の1992年7月盟友S君と5年計画でマッターホルンを目指していた真ん中の年、西穂～奥穂～大キレット～槍と歩き、下山後は白骨温泉・斎藤旅館泊、4日ぶりに観るテレビはバルセロナオリンピックで優勝した14歳岩崎恭子「今まで生きてきた中で一番幸せ」で盛り上がっていた。中の湯登山口(当時は梓川沿い)から上り2時間40分、下り1時間40分はまずまずのタイム、緑色の火口湖を眼下に呑むビールは格別で、当時はビールを担ぎあげ山頂で一杯は登頂の儀式、下山後に温泉で汗を流しそこでまた一杯、平気で車を運転していた時代だった。

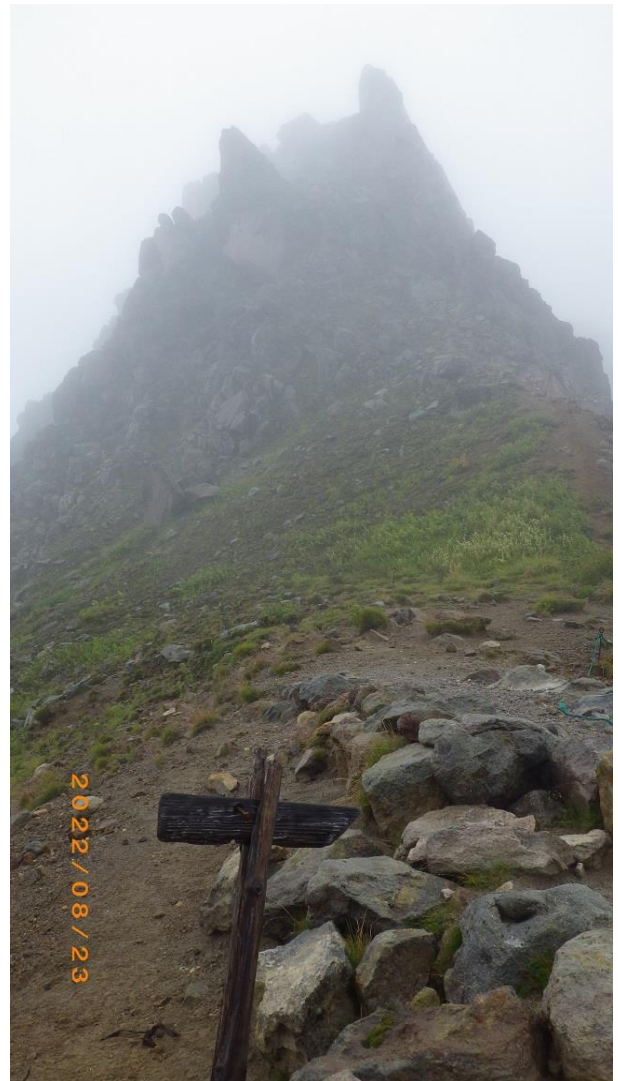
今日の新中の湯登山口は旧館より3km程先になり、駐車スペースがないと聞いていたので早めに宿を出たのだが、6時半ではもう満車状態、仕方なく車道に沿って横駐車した。

6:40 出発。歩き始めて間もない樹林帯の中、雨が降り出し樹木の滴と相俟ってたまらず雨具を出す。

乳白色のガスは深まり視界はせいぜい 200~300 ㍎、今日はダメかと滅入ってくるが何とか気を奮い立たせる。大展望を期待していたのでガッカリだがまあしょうがない。男の子を連れた若いお父さんと抜いたり抜かれたり相前後し登山口から丁度 3 時間で北峰・南峰の鞍部に到着。ゴーゴー、シューシューと噴煙上げる音が聞こえるがガスでその様子も見えない。さらに 15 分で北峰山頂に到着、霧雨の中強風に晒され寒くて休憩する気にもならず 2 人の写真を撮ってもらい早々と退散したのだった。往復 6 時間、今はこれ位までがいいところだろう。天気良き日に又来てみたい気もするが…………。



(焼岳頂上にて)



(焼岳・南峰、焼岳北峰・南峰鞍部より)

《コースタイム》

新中の湯登山口 6 : 40→8 : 20 広場→9 : 40 頂上稜線→10 : 05 焼岳・北峰 10 : 10→11 : 20 広場
→12 : 40 新中の湯登山口下山

(了)